

〈活動内容〉 スイス連邦大学ローザンヌ校水理構造物研究所（LCH, EPFL）、ミラノ工科大学水工学セクション（Politecnico di milano, Sezione Ingegneria Idraulica）の二カ所に訪問し、施設見学と研究内容視察を行った。

〈感想〉 ローザンヌの研究所では、さまざまな形状のダム模型を用いた実験や、海洋における石油流出と流出防止フェンスの関係を調べる実験、ヨットの周りの流れに関する実験など、大規模で実用性の高い実験が行われていた。設備の充実さ、そして研究所の大きさを実感するとともに、研究内容テーマの面白さを感じた。

ミラノ工科大学水工学セクションでは、施設や資金があまり潤沢でない中、創意工夫をもった研究がなされていた。特に興味を引かれた研究は、水路内の球の振動と移動経路の研究であった。また、そこで対応してくださった教授や学生の研究への熱意に触れることができた。

今回、視察した実験は非常にユニークで面白いものが多く、（また私が大学院で計算工学を専攻しているため、）それらの実験を対象にした計算を試してみたいと感じた。また、訪問準備や、実際に海外訪問し英語でのやり取りを経験したことで、海外研修や英語に対する抵抗が少なくなった。今後はより積極的に、海外の研究内容を収集すること、海外に発信していくことに努めたい。